

# 幼 児 の 教 育

昭 和 十 四 年 七 月



蝶々が追つかけて来た。たゞ飛んでゐるのではない。わたしの持つてゐる花に來るのだ。蜻蛉までも來る。そんなに、みんなで、わたしの花がほしいのかしら。

さう思ふと、ひとりでだまつてゐられない。手をのばして、前に行くお友達をつかまへて、その急を告げる。今まで全く別のことを想つてゐたお友達は、だしぬけのことに、びつくりする。

子どもの世界には、それ／＼のわけがある。

(倉橋生)